

第2回 渚滑川減災対策協議会 議事要旨

日時：平成29年1月18日（水）10:23～11:53

会場：紋別市民会館 3階 小ホール

構成員：紋別市長（代理：建設部長）、北海道オホーツク振興局長（代理：副局長）、網走地方気象台長、陸上自衛隊第25普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長（代理：災害係長）、紋別地区消防組合消防長、網走開発建設部長

《議事内容》

- ① 平成28年8月の出水概要
- ② 幹事会の報告
- ③ 水害時の対応に係る市町村向け啓発ビデオ
- ④ 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく渚滑川の減災に関する取組方針（案）について
 - ・主な課題と取組内容について
 - ・北海道緊急治水対策プロジェクトについて
 - ・浸水ナビの説明について
 - ・フォローアップについて

《首長等からの主な意見》

【今夏の大雨対応等に関して】

（紋別市）

- ・網走開建のほか関係機関からの各種情報の提供、また自衛隊及び開発局からのリエゾン派遣などに感謝。
 - ・渚滑川については、結果的に氾濫や大きな被害は無かったが、計画高水位を超える出水となり、各地区に避難指示の発令を行った。オンネナイ川、藻別川などの北海道の管理河川や小河川に関しても、避難勧告などの避難情報の発令を行った。
 - ・避難情報発令の判断については非常に悩ましい部分ではあるが、時間的・人的な部分を考慮し躊躇無く発令できるよう今後も準備していきたい。
- また、今回いただいたホットラインなどによる情報や気象台からの気象情報提供については、避難判断等に非常に有益であることから、引き続き情報提供をお願いしたい。さらには自衛隊や開発局などからのリエゾン派遣についても引き続きお願いしたい。

(紋別地区消防組合)

- ・市の対策本部に組み込まれた形で、対策本部として機能したのは今回が初めてであり、避難誘導、避難情報などの一部情報については錯綜した部分はあったが、引き続き適切に対応をしていきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・今期出水では、管内の消防や自衛隊と連携し、住民の避難活動や交通規制、救助を行った。
- ・常呂川の氾濫の影響で浸水域から1名の死者が出たことは本当に残念である。住民の防災に対する危機意識が必要と感じた。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・当隊は、管内ではないが丸瀬布の常川が氾濫するなどによる対応にあたった。
- ・今期出水では、各地域にリエゾンを派遣しており、日頃からの顔の見える関係の構築によって、今後についても連携強化を図っていきたい。
- ・近年の災害派遣のハードルは低くなってきており、住民の命を守るためにも、ますます連携を取り合い、この減災のための取り組み方針に基づいて、今後も連携を深めながら取り組んでいきたい。

(網走地方气象台)

- ・平成28年8月の月降水量は網走で管轄している29箇所の観測点のうち、28箇所で極値を更新した。
- ・近年、短時間に降る大雨が増えている。また、北海道では経験したことのないような本州並の大雨も発生しており、特に、オホーツク管内では大雨が少なかったこともあり、経験したことのないリスクが発生することもあると認識する必要がある。

(北海道オホーツク振興局)

- ・関係機関からの各種情報の提供、また支援や協力して対応して頂いたことに感謝。
- ・今期の出水を受けて、各種情報をいち早く収集し、共有し、そして住民への防災情報の発信をどのように行っていくのが大事だと感じている。
- ・今回、振興局として初めてリエゾンを北見市役所・常呂総合支所に派遣した。とても有意義なものになったため、今後も引き続き対応していきたい。

【減災に向けた今後の取組方針について】

（紋別市）

- ・ 想定最大規模の浸水想定区域では、上渚滑地区全域が浸水範囲となるため、避難所の見直しなどを行っていく必要がある。
- ・ 避難情報を躊躇無く出すことが必要であるが、受け取る側の意識啓発が大事だと考えている。
- ・ ハード対策については、時間がかかる事もあり、先んじてソフト対策を充実させていくことが必要だが、ハード対策も遅滞なくやっていただきたい。また、維持管理の側面について、河川の床ざらいや樹木伐採なども行っていただきたい。

（紋別地区消防）

- ・ 関係機関の水防資機材の所有状況など情報共有が必要である。また資機材の充実も行っていきたいと考えている。
- ・ こうした協議会を通じて、今後も関係機関との連携・共有を図っていく。

（北海道警察北見方面本部）

- ・ 住民はなかなか逃げないもので、こうした住民をいかに逃がすかが大切であり、住民の危機意識向上や、防災対応にあたるもの達の2次被害減少のためにも、日頃からの啓発が必要である。
- ・ 警察の啓発力向上のため、气象台からセミナーを受けるなどの対応を行っているところである。

（網走地方气象台）

- ・ 各自自治体で作成されているハザードマップ等を活用し、日頃から啓発活動を行っていくことが必要である。
- ・ 減災についてはハード対策・ソフト対策、共に重要であり、气象台では特にソフト対策の面で情報の改善を図る。現在、警報等については文字情報であるが、平成29年度の出水期を目途に警戒を要する期間や危険度等について視覚的に分かりやすい情報を提供する。また、気象情報に用いるキーワードについて、危機感が伝わるような的確な表現を用いる。
- ・ 防災気象情報について、冬期は暴風雪などの情報についても是非活用をお願いする。

（北海道オホーツク振興局）

- ・ 想定最大浸水想定区域が告示されたが、一次避難、二次避難に加え、垂直避難も考慮した形での避難計画の策定が課題だと思う。

- ・直轄管理河川の水位予測、気象情報について、情報の活用が非常に重要と感じた。
- ・今後、道では、河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方について検討しているところで、今後、伐木なども計画的に実施し、洪水影響低減を図っていく。
- ・道管理河川についても、今後当協議会を活用させていただき、減災対策の取組を整理していきたい。
- ・渚滑川水系の道管理河川については、簡易的な手法により3年間を目途に作成する予定です。
- ・避難準備情報等の名称が変更になったことから、関係機関におかれては情報の周知についてご協力をお願いしたい。
- ・渚滑川水系の道の洪水予報水位周知河川における想定最大規模浸水想定区域図は、平成28年度に前倒しで作成する予定である。また水位周知河川以外の河川についても、簡易的な手法により3年間を目途に作成する予定です。
- ・避難情報の名称が変更になったことから、関係機関におかれては情報の周知についてお願いしたい。
- ・日頃からの顔を合わせての連携が大切だと考えており、今後も協力願いたい。

《フォローアップについて》

- ・今後出水期前に協議会を開催し、各機関の取組状況の確認や取組の内容などについて協議していく。